

OCSエラーを防ぐために、すべてのサーバで22.0アップグレード後にCAPを無効にする必要がある

内容

[概要](#)

[解決方法](#)

[マニュアル](#)

概要

Client Application Protocol(CAP)インターフェイスはリリース22.0から削除されました。CAPは22.0以降ではサポートされていないため、22.0へのアップグレード後に無効にする必要があります。これは、「A CAP connection has terminated between the Open Client Server and Application Server 1.2.3.4」やbwなどのアラームでを防止しますClientServerASConnFailed」というメッセージが表示されます。

Application ServerとXtended Services Platformを22.0にアップグレードした後、ASとXSPの両方にCAPアラームが表示される場合があります。

```
XSP_CLI/Monitoring/Alarm/AlarmsTable> list
Identifier Timestamp Alarm Name Severity Correlation Parameter
=====
=====
66414 2017-11-12 8:58:55 GMT bwOpenClientServerASConnFailed Critical 10;37;CAP;10.123.123.80;
66415 2017-11-12 8:58:55 GMT bwOpenClientServerASConnFailed Critical 10;37;CAP;10.123.123.10;
```

解決方法

22.0ではサポートされなくなったため、展開されているすべてのサーバのCAPProxyを無効にします。アップグレードと同じメンテナンス時間帯に行うことをお勧めします。

```
XSP_CLI/Applications/OpenClientServer/CAPProxy> get
enabled = true
serverPort = 2206
numConnections = 1
```

```
XSP_CLI/Applications/OpenClientServer/CAPProxy> set enabled false
*** Warning: BroadWorks needs to be restarted for the changes to take effect ***
```

変更を適用した後は、OpenClientServerを再起動する必要があります。アップグレード前にCAPProxyが無効になっている場合、OpenClientServerはアップグレード中に再起動されるため、再起動する必要はありません。

```
$ restartbw OpenClientServer
```

マニュアル

[アラート#20181031](#)

22.0リリースノートの[セクション2.24のメンテナンス終了通知](#)